CREA Traveller

クレア・トラベラー

Autumn
2016 No.47
1110yen

2016年10月1日発行（季刊）第1巻第4号

未知なる
スイス

新しいニッポンに
新しいバッグを！

ウィーン
美と音楽に浸る旅

未知なるスイス

Beyond Amazing
SWITZERLAND

1 レースの前夜祭にテイスティング。ワイナリーツアーの場合、金額はワインによって変わる。2 ワイナリーで最も上級のフランチャコルタ キュヴェ・アンナ マリア・クレメンティと、同ロゼ。

カ・デル・ボスコ

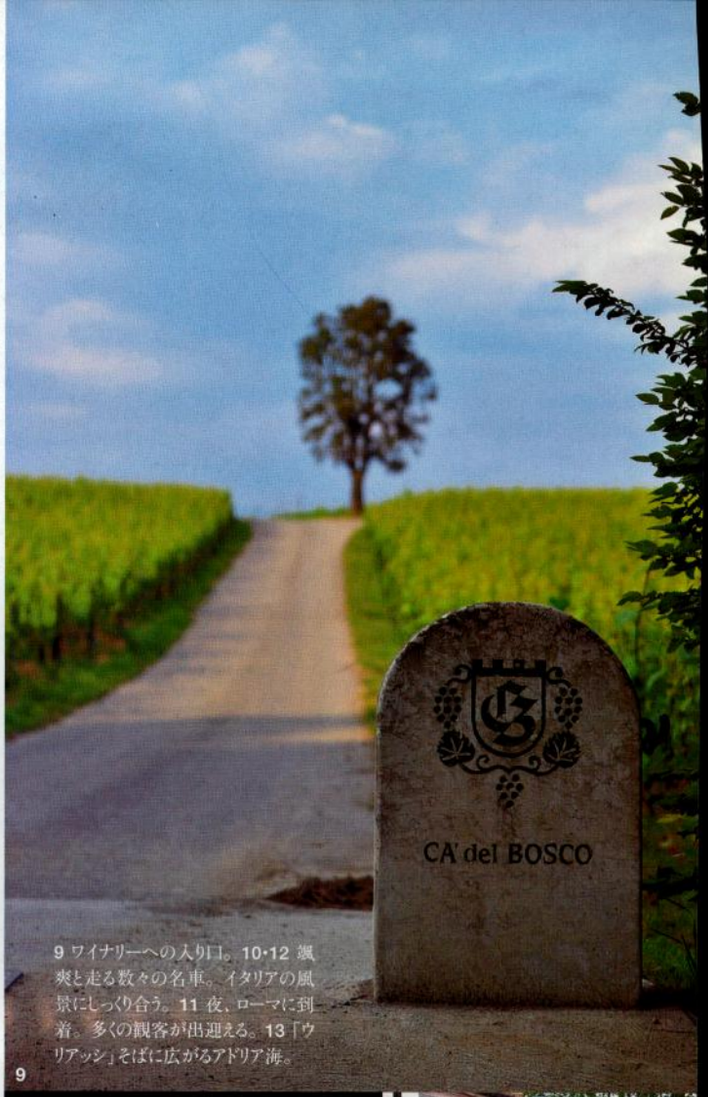
Ca' del Bosco

"奇跡"が起きた理由をこのワイナリーで確かめる

「フランチャコルタの奇跡」という言葉が前から気になっていた。イタリア北西部、ミラノからブレシアに向かう途中のエルブスコでは、1950年代までは地元で消費する程度のワインしか造っていなかった。しかし60年代に、この地で収穫するブドウの品種が発泡性ワインに適していることが分かると、わずか五十余年でスパークリングワインの一大産地となったのだ。19の村からなるフランチャコルタ地区には113のワイナリーが存在するが、なかでも規模が大きいのがこちら。94年にサンタ・マルゲリータ・ワイングループの傘下になった。最新の設備や醸造技術が導入され、イタリア有数のスパークリングワインの生産拠点である。栽培するブドウの約7割がシャルドネ。サッカーのACミランが優勝すると、こちらのスパークリングで乾杯することが知られる。

Via Albano Zanella 13, Erbusco, Brescia
☎+39-030-7766111　www.cadelbosco.com
㊫9時〜12時30分、14時〜18時
9時〜17時（土・日曜）　無休
㊨ワイナリーのツアーとテイスティングのセットが35€〜
※要予約

前夜祭では、出走予定のランチア・ラムダが人気を集めた。



9 ワイナリーへの入り口。10・12 颯爽と走る数々の名車。イタリアの風景にしっくり合う。11 夜、ローマに到着。多くの観客が出迎える。13「ウリアッシ」そばに広がるアドリア海。

リストランテ・ウリアッシ

Ristorante Uliassi

碧きアドリア海の美しさと海の幸がもたらす至福

クラシックカー・レースの応援でもランチに手を抜かないのがイタリア流。2日目のリミニからローマへ向かう道中、アドリア海に面したミシュラン2ツ星の「リストランテ・ウリアッシ」にピットイン。1990年開業のこちらは、独創的なシーフード料理で知られ、日本の百貨店が開催するイタリア展に招待されたこともある。この日はサンタ・マルゲリータのチーム用のコースメニューが組まれた。アンティパストとして供されたのが写真右上、パセリのスープとルバーブのコンフィ。写真右が"イル・リミニ・フェスト"という名物料理で、魚介の串焼き。いずれも斬新でありながら緻密に計算され尽くした味わいで、カ・デル・ボスコのフランチャコルタの繊細な泡にマッチした。

セニガッリアは、アドリア海に面した静かな町。この地でオーナーシェフのマウロ・ウリアッシさんと妻のカティアさんが家族で経営するリストランテは、適度な規模とさり気なく気配りする接客で居心地がよかった。

Banchina di levante 6, Senigallia, Ancona
☎+39-071-65463　www.uliassi.it
㊫12時30分〜15時、19時45分〜23時
㊡月曜

1～4 レース3日目は、ローマを出発してトスカーナを経由。5・6 夜にパルマに到着。堺正章氏も参戦。7～10 最終日はパルマからブレシアまで。途中、ローディという美しい街の広場で、大声援を受けた。日本でも同じように約1200㎞を走破する、「La Festa Mille Miglia 2016」が10月14日、東京を起点にスタートする。

Roma~Parma~Brescia

緑のトスカーナから古都まで。この国の多彩な顔に触れる

大歓声に迎えられてチェッカーフラッグを受けた

後半戦はローマからスタート、〝長靴〟のすねにあたる部分に沿って北上する。パルマで1泊、最終日はブレシアにゴールイン。なかでもトスカーナの風光明媚な丘陵地帯を走るローマからパルマに至る区間は、このレースのハイライトだ。

われわれ応援チームは高速道路で先回り。澄んだ青空の下、ブドウ畑やオリーブ畑の間を走る美しいクラシックカーに声援を送る。余談だが、いま世界中でクラシックカーの価格が高騰している。このレースの参加車両も数千万円クラスはざら、なかには数億円の値が付くモデルも走っている。けれども参加者たちは希少価値の高い車に遠慮なく鞭を入れ、ぶっ飛ばしていく。

名車を拍手で見送ると、応援チームはコースを外れてキャンティ・クラッシコ地区へ向かう。サンタ・マルゲリータ所有のワイナリーと近くのレストランで、トスカーナの大地の恵みを味わうためだ。

パルマからブレシアへ向かう最終日、サンタ・マルゲリータがプレス用に用意した歴史的なランチアの助手席に座り、胸が躍る。ゴール地点のステージに上がるまで、切れ間なく大声援が続く。この時、自動車評論の巨匠、故・徳大寺有恒氏の「イタリア人がイタリアの名車を見るのは、日本人が長嶋茂雄に出会うのと同じだ」という言葉を思い出した。徳大寺さんの言葉は大げさではなかった。イタリア人はワインと同じくらいの深い愛情を、自動車にも注いでいるのだ。

リストロ・ディ・ラモーレ

Ristoro di Lamole

小さな村の大繁盛店で トスカーナを味わい尽くす

レース3日目の途中、キャンティ地区の中心に位置するラモーレ村の人気リストランテへ。地元の方からツーリストまで、多くの人がこの店を目当てに、こぢんまりとしたこの村にやって来る。店はいつも賑わっているので、ランチもディナーも要予約。いかにもトスカーナらしいトスカーナ料理が評判で、特に多くの客がフィレンツェ風Tボーンステーキ〝ビステッカ・アラ・フィオレンティーナ〟をオーダーするとか。場所柄、キャンティ・クラッシコのワインを豊富に取り揃えており、下に紹介するワイナリー、ラモーレ・ディ・ラモーレのワインもこちらで堪能できる。ドルチェも美味で、ビステッカで満腹になったはずなのに、ティラミスやパンナコッタ、チーズケーキがするすると お腹に収まっていった。

小高い丘に位置するため、トスカーナを見渡す展望のよさも人気の秘訣。気候のよいシーズンは、テラス席から予約が埋まっていく。ビステッカは1kgあたり49€（写真上は1.3kg）

Via di Lamole 6, Greve in Chianti, Firenze
☎+39-055-8547050　http://ristorodilamole.it/
㊡12時〜15時、19時30分〜22時30分　無休

かつて日本人が修業していたとのことで実に好意的だった。

ワインセラーでは、80年代のヴィンテージが良好な状態で保存されている。

Via di Lamole,
Greve in Chianti, Firenze
☎+39-055-9331256
www.lamole.com
㊡11時〜17時　無休
㊫ワイナリーのツアーとテイスティングのセットが15€、ランチ付き40€
※要予約

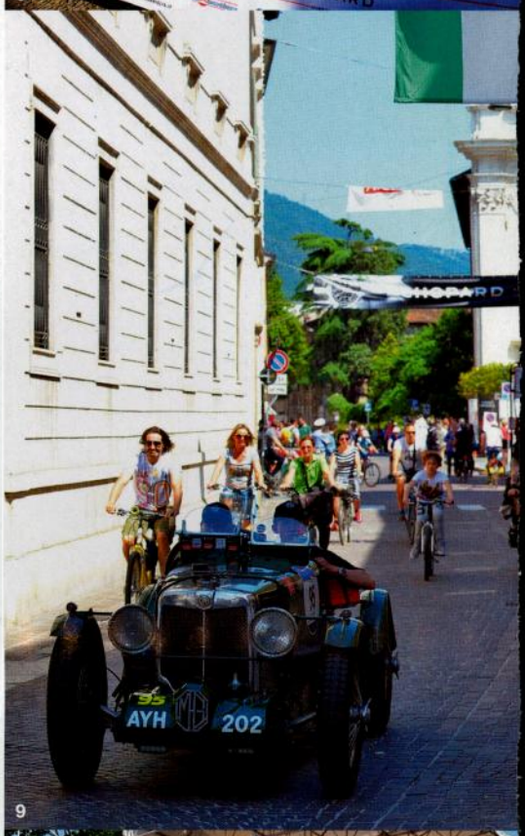
ラモーレ・ディ・ラモーレ

Lamole di Lamole

森に近いワイナリーで 力強い味わいの秘密を知る

トスカーナでも高品質ワインで知られる、キャンティ・クラッシコ地区に位置するワイナリー。700年以上の歴史を有し、1993年よりサンタ・マルゲリータ・ワイングループに加わった。固有品種サンジョヴェーゼを主体としたキャンティ・クラッシコの製法をいまも守っている。標高350〜650mとブドウ畑の標高が高いことから、夜間の気温が低くなり、糖度が高くなるのが特徴。スタッフにキャンティ・クラッシコとほかのトスカーナのワインとの違いを尋ねると、「トスカーナのブドウ畑は丘にあるけれど、キャンティ・クラッシコのブドウ畑は森に近い。だからブドウの味が強くなる」と胸を張った。確かに周囲を見渡せば、このワイナリーは森と山に囲まれている。少量の生産だが、このワイナリーのオリーブオイルも評価が高い。

8



9

10

ワイナリーの見学とテイスティングを組み合わせたワインツアーが人気。

水と緑と花のまち 山の港町・長井の四季を旅する

東京から山形県長井市まで約3時間。
緑豊かな、朝日・飯豊山系の懐に抱かれた長井のまちは、
元禄の昔から最上川舟運で栄えた「山の港町」だ。
豊かな自然と季節の花に彩られた長井の魅力を紹介する。

Photo: Kenji Ichihara, Nagai City
Design: Shinobu Takahashi

冠雪の峰々を背景に、競い合うように咲く長井の桜は息をのむ美しさだ。

春から夏へ。長井のまちは花に彩られる

3月に入ると、長井にもゆっくりとした足取りで春が訪れる。最上川の川岸に残っていた雪も次第に姿を消し、草の間からふきのとうが顔をのぞかせる。そして4月中旬、土手の桜並木は満開の時を迎える。大正4年、大正天皇即位を記念して最上川の堤防約2キロにわたって植えられた「最上川堤防千本桜」だ。

山形県南部置賜地方には、南陽市赤湯から長井市、白鷹町荒砥を結ぶ約40キロの「置賜さくら回廊」がある。最上川堤防千本桜も回廊の見どころのひとつだが、とりわけ人気なのが長井市の「伊佐沢の久保桜」と「草岡の大明神桜」だ。ともに樹齢約1200年と伝えられるエドヒガンザクラで、国指定天然記念物となっている。

桜が終わると、5月中旬から、つつじのシーズンになる。最上川堤防千本桜のそばには、約3000株の白つつじが咲き誇る「白つつじ公園」がある。琉球種の白つつじが一斉に花開いた様は、まるで雪景色。そこだけ冬に逆戻りしたかのようだ。

この公園は、長井の発展に寄与した地元の篤志家・横山孫助らが明治29年に造ったものだ。一方、長井のもうひとつの観光名所となっている「あやめ公園」は、明治43年、金田勝見という人物が、伐採した杉林の跡地に数十株の花菖蒲を植えたのが起こりだという。以後、明治、大正、昭和と大いに賑わいをみせ、昭和5年に山形新聞社が県内で開催した「山形県一名所」人気投票では、堂々の第1位に輝いた。地元出身の彫刻家、故・長沼孝三氏がデザインした長井市の市章も「あやめ」がモチーフ。文字通り、あやめは長井市のシンボルなのだ。3・3ヘクタールの

市街地に残る昭和初期の洋館「旧小池医院」。桜によく映える。
(写真提供：小池力子氏)

樹齢約1200年、国指定天然記念物の「伊佐沢の久保桜」。支柱に支えられた枝に毎年見事な花をつける。

Brescia~Rimini~Roma

世界遺産をかすめるように
伝説の名車たちが駆け抜けていく興奮！

2・3 レース前日、ブレシアのコンベンション施設ではレースに参加する車両が集まり、チェックを受ける。伝説の名車を間近で見ることも！ 4 パトカーも往年のスタイル。1・6・7 いよいよスタート。5・8 レース2日目。リミニからローマへ向かう途中で通りかかる、ウルビーノ。山間の小さな町だが、文化遺産が多く世界遺産に登録されている。

4日間で1600キロを走破。優雅でハードな大人の遊び

クラシックカーの一団が赤信号で停止すると、警官が青信号の車の流れを止めた。そしてクラシックカーのドライバーたちを、大きな身ぶりで「行け！ 行け！」とうながす。沿道に集った老若男女の大歓声に後押しされて、往年の名車たちは勢いよく加速した――。

これは今年5月にイタリアで開催されたクラシックカーレース、ミッレミリアのひとこま。ミッレミリアとは1000マイル（約1600キロ）の意味で、1927年に始まったイタリア半島を駆け巡る公道レースだ。大きな事故があったために57年を最後に中断されていたけれど、77年に往年の名車が走るクラシックカーレースとして復活を果たした。

世界的なワイン醸造会社であるサンタ・マルゲリータ・ワイングループはミッレミリアのスポンサーであり、5台のクラシックカーをこのレースに送り込む出場者でもある。私たちは今年、同社の応援チームに同行するという、車好きにはこれ以上ない幸運に恵まれた。

イタリア半島の付け根に位置する古都ブレシアを出発すると、一団は〝長靴〟のふくらはぎに沿って南下。リミニで1泊してから足首の手前で半島を東から西へと横断して、ローマに到達する。

開幕前夜は、スタート地点のブレシアに近いフランチャコルタのワイナリーでテイスティングと前夜祭だ。車好き垂涎の参加車両を囲み、ワインと料理を堪能する。スタート前から、美しいものと速いもの、そして美味なるものを愛するイタリア人気質を肌で感じることになった。

イタリア1000マイルの絶景と美食と。
最高峰のクラシックカーレースへ

美しき名車が甦る華麗なる祭典

1000 MIGL

街の広場に名車が姿を現すと、集まった人々は温かい拍手と歓声で出迎える。
自動車はワインやファッション、サッカーと同じく、イタリア人が誇る文化だ。
4日間のクラシックカーレースを追いかけて、そんなことが見えてきた。

志水 隆=写真　サトータケシ=取材・文
Photo: Takashi Shimizu Text: Takeshi Sato

ゴール地点のブレシアで
その瞬間を見届ける。

IA, ITALIA

レース途中のローディという街で
参加者が歓待される。

昼も夜も楽都ウィーンの愉しみは尽きない

頭取や役員たちの会議室は今やイベントや舞踏会の会場に。